

チルト3の猛攻に耐えた！
宮地元輝が今年のG I 初戦を制覇！



下関

1/11~16

GI

海響王決定戦



着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	◎	①	宮地 元輝	38	佐賀	3113311	1	11
2	○	②	馬場 貴也	40	滋賀	1312451	2	09
3	×	⑥	菅 章哉	36	徳島	4332113	6	14
4		④	吉田 拓郎	42	岡山	2242122	4	17
5	△	③	山口 剛	42	広島	1532521	3	10
6		⑤	井口 佳典	47	三重	144512	5	15
2連単		①-②		370円	1番人気	逃げ		
3連単		①-②-⑥		2950円	9番人気			

シリーズ展開

S Gかと見まごうばかりの豪華メンバーが集まったが、注目のエンジン抽選ではスーパースターの峰竜太、昨年のグランプリ覇者の毒島誠が好素性機をゲット。山口剛も2節連続V機を獲得し、この3人が戦線をリードするとみられた。だが、峰は予選1勝のみで7位、山口も予選最終日の6枠戦で5着になり11位。予選トップも狙えた毒島も4日目6枠から6着と波に乗り切れずに5位だった。その3人を尻目に快走を続けたのが宮地元輝。予選は3勝オール3連対の活躍で、GIでは自身初となる予選トップ通過を果たすと、準備もすっかり押し切ってV戦白力ボックを手にした。優勝戦はチルト3度の菅章哉が大外から襲いかかったが、「本当にギリギリでした」と何とか受け止めてGI3度目の美酒に酔った。

現場記者の目

宮地元輝が手にした28号機は2節前に地元佐々木裕美がトップクラスの伸びに仕上げた急上昇機。前年から気配は良好で、優勝戦では出足、伸びともに上位クラスにまで引き上げてのV。的確な調整を施しての3度目のGI優勝は称賛に値する。心から拍手を送りたい。ただ、優勝戦にはもう一人の主役がいた。宮地をあとい歩まで追い詰めた菅章哉だ。昨年は年間9Vと完全復活をアピールし、今節も快調な足取りで優勝戦は6枠で出走。V戦は持ち味のチルト3度を投入すると、内枠勢を次々とのみ込んでイン宮地を急襲するも、まくり切るまでは至らず3着に終わったが、GIの舞台でも菅のまくりが通用することを改めて証明した。今年中に菅のGI初Vの吉報が届くことを期待したい。(西日本スポーツ・岡部)

102期の勢いが止まらない！
山田康二が池田浩二を差し切った！



江戸川

1/14~19

GI

江戸川大賞



着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	○	②	山田 康二	37	佐賀	121231	2	16
2	◎	①	池田 浩二	46	愛知	31221	1	15
3		⑥	岩瀬 裕亮	36	愛知	123522	6	15
4	△	③	井上 一輝	30	大阪	1451131	3	21
5	×	④	片岡 雅裕	38	香川	1412112	4	11
6		⑤	中島 孝平	45	福井	21242	5	11
2連単		②-①		1200円	4番人気	差し		
3連単		②-①-⑥		7040円	24番人気			

シリーズ展開

初日DR賞はイン石渡鉄兵を3コース片岡雅裕がまくり撃破。2日目のGR賞は当地7年半ぶりのハンデも池田浩二がイン逃走。結局予選をリードしたのもその両名。片岡が6戦4勝で予選首位。池田が次位。江戸川は「相思相愛」と語る山田康二も近況抜群機31号と組み3位に。準優は山田、池田と順当に逃げたが…。ラスト12Rの1枠片岡のみがSを逸して井上一輝のまくり差しに屈する2着。優勝戦は結局実力最上位の池田が1枠を勝ち取り、地力の差を見せつけると思われたが…。ラストに江戸川の難しさが出た。潮止まりから上げ潮に転じるSの難しさが顕著になる優勝戦の時間帯。池田はコンマ15の平凡S。1Mもカドから伸びた片岡に反応しターンが流れた。この隙を逃さず差した2コース山田が優勝をさらった。

現場記者の目

技量、機力、気力、水面適性。技量という一面では池田が頭抜けた存在。山田康二は機力&気力と難水面江戸川で最も大切な水面適性が池田に勝った。また、山田自身の当年にかける熱い思い、熱量もVの大きな原動力となった。「同期で一番になる。そこを念頭に今年はやっていく」と言葉に出して、自らにもプレッシャーをかけて走る闘志あふれる姿があった。一昨年は遠藤エミ。昨年は河合佑樹に前田将太と同期達のSG戴冠を眺める立場に甘んじてきた。「追いつきたいって言っている年齢でもない」デビュー18年目の37歳。いつかと甘えてはいられぬ時が過ぎた。今年、今こそ同期たちに肩を並べ胸を張る。2025年の山田は、好調102期勢の中でも要注目選手となる。(野添)